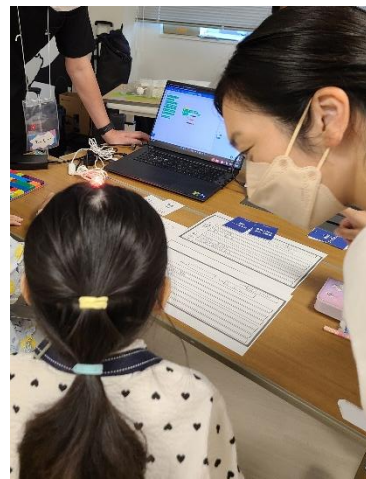
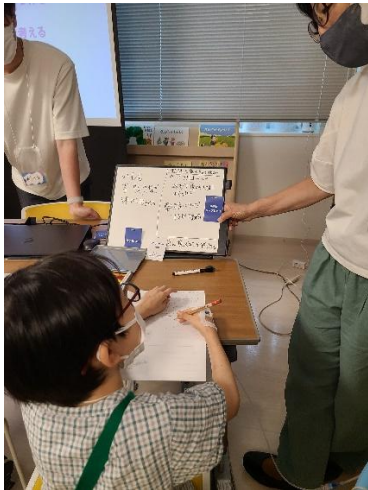


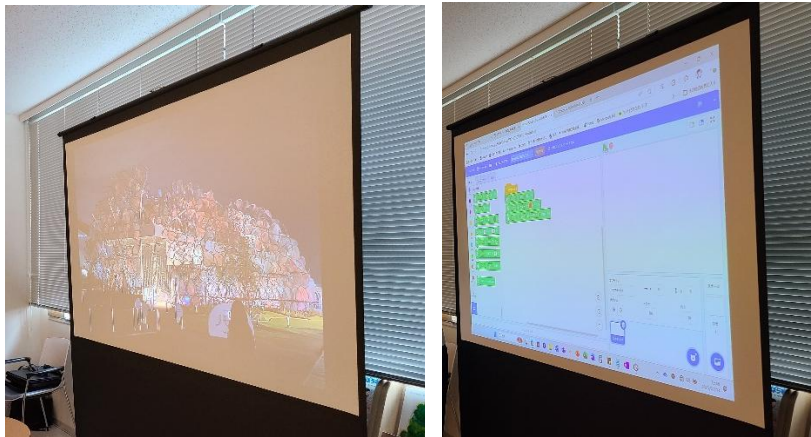
大阪・関西万博パナソニックグループ

パビリオン「ノモの国」ワークショップ

7月14日に、国立循環器病研究センターでパナソニックグループパビリオン「ノモの国」の照明演出ワークショップ、「ノモと、ヒカリと、モノガタリ」の出前授業を実施しました。事前学習として、ものをみたとってということとは何かを考えてから臨みました。当日は、見立てるとということに加えて、ヒカリによって受けとる印象が大きくかわることを学びました。さっそく実践では、パナソニックグループパビリオンが何に見えるか2人一組で考えました。さなぎに見えたりやマカロニに見えたりなど様々な意見が出てきました。起承転結を考えるカードが用意されており、そのカードを参考にしました。その後、2人で考えた見立てから、起承転結がある短いお話を考えました。マカロニとうどんが戦うお話になったり、しゃぼんだまがでてくるお話ができあがったりと子どもたちは楽しそうでした。



そのあとは、お話に合わせたヒカリの演出を考えました。スクラッチを使ってプログラムを組んでいきました。



スクリーンでプログラムの組み方を習い、実際にどのように光るのかパビリオンの様子も見ることができました。

子どもたちの机にはパソコンとスクリーンと色に合わせて光るボールが用意され、それらを使って光り方の確認をしながらプログラムを組んでいきました。



光の演出を決めたら次にお話を録音しました。お話もみんなが聞きやすいように、ゆっくりはっきりと話すよう練習してから録音しました。



時間に余裕がある子どもたちはさらに、効果音まで考えていました。

一つの作品を作り上げることができたということと、万博で世界中の人々に見ていただけたということで、子どもたちは自信をつけることができました。

出来上がった作品をお互いに見て、感想を手紙にして伝え合いました。